



松本若者フレスト



第4回実施報告書

★ 開催日時 令和7年7月16日 午後7時～9時
★ 開催場所 集えるシェアハウス 温
★ 参加グループ 市長と話したい学生有志
★ 参加人数 6名

テーマ「若者をつなぐ 一人ひとりの点から線へ」



提案・意見



☆こんな活動をやっている若者や学生が
います！みんながつながるには？



①若者参画課ができ、若者支援に力を入れていくと思うが、具体的にどんなことを考えているか。

提案内容

- ・なぜ若者参画課を作ったのかをもう一度お聞きしたい。
- ・今日集まっているメンバーも、それぞれが色々な活動をやっているが、それが「点」になっていて、お互い何をやっているかわからず、うまく連携できない。
- ・それをまとめる役が若者参画課だと思う。
- ・大半の学生は相談できる場所があるということを知らないなので、こういうことができる場所なんだという広報に力を入れていくべきだと思う。
- ・広報については学生への見せ方みたいなのと一緒に考えたいと思っている。
- ・今日のメンバーは発信や一緒に考えるのが得意な人たちなので、みんなでできたらいいと思う。

市長回答

- 今、人口は逆ピラミッドで、若い世代になればなるほど数が少ないので、単純に言うと発言権・影響力がどうしても少なくなる。
- これから社会に貢献したり、家族を育てる主役になっていく人たちの発言権や影響力が小さい社会は、衰亡するしかないという構図を何とかしなくてはいけないという問題意識をずっと持っている。
- 若い世代の発言権・影響力を行政側として受け止める体制を少しでも作る必要がある。
- その姿勢を示す第一歩として、若者参画課が、問題意識がある若者や、何かを実現したいが相談先が分からない、あるいはお金の面でサポートしてほしいという思いを持った若者の受付窓口となる。
- 相談を受けたら、担当課にしっかりつなぐ橋渡しをする、一緒になって考えるということが若者参画課にやってほしいこと。
- まずは窓口になることで、それぞれの人たちの活動や取り組みを把握して、同じ思いを持つ人たちのつながりを作る、一緒にやる場を提供するという「点」を「線・面」にしていくことを、次の段階で若者参画課にやってもらいたい。
- 若者・学生への広報と、もう一つは若者参画課の職員が全庁的に影響力を持てるような、若者政策が市の中で優位性の高いものだということを、市長の立場で庁内に徹底させたい。
- 学生側への発信については、実行部隊となってもらったり、若者参画課の職員をいい意味で突き上げるくらい一緒に活動してもらえたら、若者参画課のパワーが大きくなると思うので、みんなが当事者になってほしい。



②シェアサイクルについて	
提案内容	市長回答
・自転車で通っていて、シェアサイクルをよく利用する。 ・とても便利だが、例えば駅から乗って大学まで行って止めるが、帰りに乗ろうと思うと、ステーションにないことが多い。 ・シェアサイクルにヘルメットをつける仕組みがとても良いと思うので、もっと広めてほしい。	○シェアサイクルは、右肩上がりで利用者が増えていて、台数や止める場所も増え、利便性が向上するという、好循環。 ○ただ、乗った人がみんな往復してくれればいいが、往復しないと偏りが生じてこの偏りが、信州大学付近で起きている。 ○定期的に業者がステーションを回って、この偏りを是正しているが、人手などの課題があり、是正しきれていない。 ○今後、業者側に偏りの是正の頻度を上げてもらえるよう要請するとともに、信州大学付近に設置場所を増やせればと思っている。 ○ヘルメットの着用は努力義務ではあるが、市が着用を推奨しているのであれば、ヘルメットを提供しないのはおかしいというご意見があり、現状は半分のシェアサイクルにヘルメットを自転車の前のカゴに備えてつけている。 ○一方で、自転車のカゴを利用したいというご指摘もあり、半分にとどめている。

③自転車の走行・駐輪場について	
提案内容	市長回答
・道路がガタガタしていて、自転車自体が使いづらいと感じている。 ・街なかの自分が行きたい場所に自転車を置ける場所を作してほしい。	○松本市の街なかは、自転車で移動するのにちょうどよい大きさと、高校生はもちろん幅広い世代にとって自転車が利用しやすい街だと感じる。 ○確かに自転車通行帯だけでなく車道もガタガタしていたり、車と自転車の通る空間が整備されていない場所もある。 ○矢羽根マークの整備を中心に、少しでも車に圧迫されないで自転車が走れるように、自転車の走りやすい空間づくりを街なかを中心に進めている。 ○自転車に乗る一番の動機は、行きたい場所の真ん前に止めておいて、用事を済ませられるところだと思う。 ○今の松本市にそういう止め方をできる場所がないことは認識していて、伊勢町通りの広い歩道に駐輪スペースを作れないか3年くらい前から検討している。 ○現在2か所(神明町通り・伊勢町通り第1)設置してるが、目指しているのは、ラックに整然と止めるということが実行されて、周辺の人たちにとってもプラスだと思ってもらえるような事例を作り、さらに広げていきたい。

④子ども食堂やボランティアについて	
提案内容	市長回答
・最近知り合いの子ども食堂でお手伝いをしている。 ・松本市で子ども食堂が増えていると思うが、場所が限定的で、もう少しバラバラに細かく行うことはできないか。	○子ども食堂や、食事の提供が一番の目的ではないけれど、放課後子どもたちが宿題をやったり夕食までの時間を過ごせる場所の提供を、地理的にも数的にも広げていこうということを段階的に進めているが、現状偏りはある。 ○基本はその地域でやりたいという人にやってもらうので、自発的にやりますと言っている人たちが限られているということが、偏りの一番の原因。 ○この空白をなくすのは、市が人を雇って行うという方式ではないので是正できないというのが実情。 ○要望が大きいのであれば是正をしていかなければいけないが、我々のアプローチとしては、やってもいいですよという予備軍的な人も含めて、募集して登録してもらう人を増やしていく。 - そして、場所にこだわらないという人たちを増やして、地域との調整をし、我々のプラットフォームから行ってもらうという仕組みを作ることが大事。 ○現状広がり是不十分で、若い世代や、退職して地域に関わりたいと思っている人たちに呼びかけていくことで進めていきたいが、担ってもらえる人をどう確保するかということはなかなか難題。

⑤学習スペースについて	
提案内容	市長回答
・図書館や博物館の学習スペースに勉強しに行こうと思ったときに、どこの学校もテスト期間は同じ時期で、席がいっぱいになっている。 ・でもそれはその場所に行かないとわからないというところが不便。 ・図書館や博物館がどれだけ混んでいるかというのを、何かで見れたらいいと思う。	○確かに今の時代、例えば食事に行くにしても、席を予約したり空き状況の情報はスマホやインターネットでできる仕組みが広がっている状況からみれば、その通りな指摘。 ○現状できていない理由を私なりに分析すると、まず役所がSNSやLINEを使って情報を手に入れたり、やり取りしたりすることに慣れていない人たちが権限を持っているということ。 - 若い人がすぐできることが、やったことない世代がやると10倍以上時間かかってしまうということを考えると億劫になってしまい、今みたいな仕組みをどうやって作るんだろうというところで考えが止まってしまっている。 ○こういうリクエストが来た時に、部長や課長だけではなくて、すぐできますよという若い人たちをちゃんと巻き込んでやれないかと思っている。

●混雑確認、どうすれば簡単にできるかな？	
・例えば、カメラを席に向けて据え付けるのはプライバシーの問題から難しいので、席札を用意して、利用する人は札を取っていき、それをライブカメラで写す。 ・座席表に模した紙を壁にはり、人がいるところにマグネットで印をつけ、それをライブカメラで写す。 ・ボタンを押すと席の埋まり具合が更新されるシステムを入れるなどはどうか。	○面白い提案をもらった。 - ただ、今の話をそのまま担当課に提案すると、クリアしなければいけない問題として、そこに人員を割くことは難しいということがある。 ○そういうことをみんなが若者参画課の当事者になってもらい、一緒に問題解決できればいいと思う。

⑥長野県の若者について	
提案内容	市長回答
・長野県の若者が、自分で死を選んでしまう割合が高いという記事を見た。（実際は低い方から9番目でした） ・何かできることはないかと考えているが、原因がわからなくて、どうにかしたいという思いが止まってしまっている。	○日本でダントツに多いというほど多くはないという認識。 ○直ちに正解にはたどり着かないと思う。
●みんなはどう思う？	
・例えば、夜は気分が落ちやすいと思う。 ・市に相談できるところが、電話相談だと終了時間が夜8時までとか、混雑していて繋がらないこともあるので、夜中に人員を割くことができると良いと思う。	○今の時代だと、最初に電話でやり取りをするといっても、夜中ずっと担当者を置いておくのは難しいので、LINEでやり取りがまず最初にできるような方法。 ○一方で、夜に気持ちが落ち込んだり、一人で考え込みすぎてしまうということはあるので、電話ではなくてLINEだとしても、ある程度夜中でもやり取りができるようなところを、わずかでも設けられるというのは大事な点だと思う。 ○心の健康には気候も影響があるのかなと思う。例えば日本海側は天気が悪い日が圧倒的に多いが、松本は晴天が多くて青空が広がっている。 ○気候の面では松本市は恵まれていると思う一方で、長野県は山に囲まれているが、海辺で育った人は開放性があって遠くまで眺められるという、地理的な要因も人格形成に少なからず影響するのでは。

⑦若者の活動について	
提案内容	市長回答
・学生の催しやイベントに市長が顔を出していただけると、実態が分かったり、知っていただける機会になるんじゃないかと思っている。 ・松本市が若者や女性に住みやすい街を目指して施策を考えていると思うが、学生や若者に対しての施策は、学生と若者が一番わかっているし、一番リーチができると思う。 ・若者チャレンジ応援補助金を、プロポーザルみたいな形で、学生に対して施策を仕事として発注するという取り組みもあったら面白と思う。 ・その取り組みの良い点は、若者が圧倒的に当事者意識を持って取り組めるという点と、自分の時間にお金を払ってもらっているということを学生も意識持ってやる点、若者の参画ということを市が後押ししているという外向きの発信もできる点。 ・居場所づくりなど、やりたいけどできない人や、こういう場でヒアリングを続けていくと手を挙げる人が多いんじゃないかと思う。	○私が顔を出しても違和感がないようでしたらぜひ顔を出したい。 ○プロポーザルのお話は、今までは若者がやりたいものを募集して補助金を出していたものを、市側から若い世代を活発にするためにこういう事業をやりたいということを発注して、プロポーザルで提案してもらう。 しかも、学生や若者に対する施策については、若者が受注者として一番質の高いものを提案できるということだね。 ○若者が自分たちの企画を評価してもらい、必要な予算事業費を手にして、自分たちが望ましいと思った方向性に行くような取り組みをやるのは、確かに面白そう。 ○我々が一番力を入れていこうと思っている領域だけど、今まであまり経験がなくて行政にとって不得手だったところに、いわば外部戦力を有効に活用させてもらうという話になる。 今後プランを考えて行きたいと思った。

参加された皆さんからの感想

- ◎時代背景や社会背景を踏まえたうえで若者の疑問に答えていただけた点がよかった。松本市が抱える課題と理想像とのギャップがよい意味で可視化され、それに対する若者の関わりしろがたくさんあることがわかったので、引き続き一緒に取り組んでいきたい。
- ◎提案を評価していただき嬉しかった。若者の行動が社会を変えることができる。松本はそれを後押しすることができる素晴らしい街だと期待を感じた。
- ◎市長とお話ができる貴重な機会だった。市の方でも試行錯誤していることがわかり、頼もしくも感じた。
- ◎松本の歴史のことや自転車のことなどとても勉強になった。もっと課題意識を持っていこうと思った。若者参画課のオープンデーに行ってみたい。
- ◎交通のことや若者のことを色々考えてくれていることが伝わった。松本がこれからどんなふうになっていくのか期待したいと思った。
- ◎市長が「どうしたらより良い松本になるか」のため沢山考えていて、私も政治やできる事を考えたいと思った。

皆さん、ご参加いただき
ありがとうございました♪

